

『あわれみと赦しは、主にあり』（ダニエル書 9 章1-18 節） 2022.2.20.
<はじめに> 「祈ってください」「お祈りします」ということばを、クリスチャンはよく使います。それが単なる挨拶になってはいないかと自問します。自分のために祈ることとともに、私たちは周囲の方のために親身になって祈れているでしょうか。この箇所のだニエルの祈りはその一つの模範です。

I 主のことばによって

① 預言者エレミヤのことば(1-2)

ダレイオス元年(BC538)はだニエルらが捕囚(BC606)から 68 年、エルサレム陥落(BC586)から 48 年です。彼は捕囚と荒廢の期間が 70 年で満ちるとの主のことばを、預言者エレミヤの文書によって悟り(エレミヤ 25:11-12、29:10)、彼は主に實現を祈り求めます(3-19)。

② 読む人だニエル

だニエルはどのようにしてエレミヤの文書を手に入れたかは定かではありません(エレミヤ 36:32、51:59-64)。後に続く彼の祈り(3-19)は、モーセの律法(申 30:1-10)やソロモンの神殿奉獻の祈り(I 列王 8:46-53)が土台になっています。これらに親しんでいたのでしょうか。

③ 予め語られる神

神は御計画をそのしもべ(6,10,11,17)に予め語られます(創世記 18:17)。聞く者に備えをさせ、事が實現した時に神こそ偉大で真実な方、時とこの世を支配される方であることを明らかにされます。神は、今も聖書を読み、そこに神を見出そうとするものに語られます。

II だニエルの祈り(3-19)

① 私の主、私の神(3-4,18)

切なる祈りは態度や姿勢にも表れます(3)。また祈る相手を正視し、どんな御方と心得るかが土台です。大いなる恐るべき神は、命令を守る者には契約を守って恵みをくださる方(4)で、あわれみと赦しは神にあります(9,18、詩篇 130:4)。あなたはどうか捉えていますか。

② イスラエルはみな(5-14)

しかし、神の民イスラエルは、主のことばから外れ(5,11)、聞き従わず(6,10,11,14)、逆らい(5)、罪を犯し悪を行いました(8,15)。それ故、神はのろいの誓い(11)と災い(12-14)を彼らにもたらされました(レビ 26 章、申命 28-30 章)。70 年間に及ぶ捕囚がそれです。

③ あなたの名がつけられている(15-19)

しかし同時に、神は回復の道も示されます(申命 30:1-10、I 列王 8:46-53)。それは彼らの正しい行いによるのではなく、神の大いなるあわれみによります(18)。エルサレムとイスラエルの民には、御名がつけられ、主ご自身のために赦し救ってください、と祈ります。

III ともに祈る者として

① 「私たち」と祈る

だニエルは「私たち」と 31 回繰り返します。彼は聖書中でも類まれな義人で、むしろ諸王と先祖たちの罪の刈り取りを負わされた側とも言えます。しかし彼は自分もイスラエルの一員として、我が事として罪を告白し、神のあわれみによる回復を心から哀願します。

② 祈る者の課題

私たちは神と対等に語らい、取引できる者では到底ありません。ですから、神に祈るとき、首を垂れてへりくだるしかないのです。しかし、「私は悪くない」と主張することが何と多いことでしょうか。まして、他人の罪を我が事として祈るなど、易々とはできません。

③ キリストの心で

だニエルはイスラエルの民の罪を共に負って祈りました。それは主イエス・キリストの心に通じます。キリストは多くの人の罪を負うためにご自分をささげ(へブル 9:28)、涙をもって神に祈りと願いをささげ(へブル 5:7)、その模範に倣うようと招かれます(へブル 13:13)。

<おわりに> 「主はこれを見て、公正がないことに心を痛められた。…とりなす者がいないことに唾然とされた。それでご自分の御腕で救いをもたらし、ご自分の義を支えとされた」(イザヤ 59:15-16)。主の心をもってとりなす者が、主の御計画をこの地にもたらします。(H.M.)